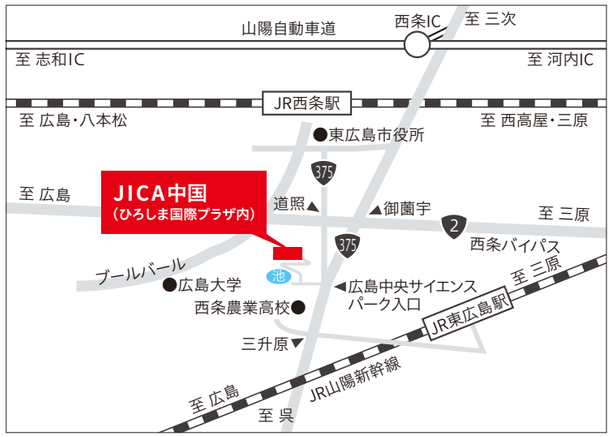
JICA PROFILE
中国



JICA中国

〒739-0046　広島県東広島市鏡山3-3-1　ひろしま国際プラザ内
TEL：082-421-6300（代表）

JR西条駅から

■無料シャトルバス　西条駅前【6番のりば】
■中国JRバス
・黒瀬・広・呉方面行き【7番のりば】〈水源池前下車 徒歩約15分〉
・サイエンスパーク行き【7番のりば】〈サイエンス北下車 徒歩約5分〉

新幹線東広島駅から

タクシー　約15分

JICA中国のことをもっと知りたいかたはこちら

JICA中国 ホームページ
https://www.jica.go.jp/domestic/chugoku/

JICA中国 Facebook
jicachugoku

JICA中国 X
jica_chugoku

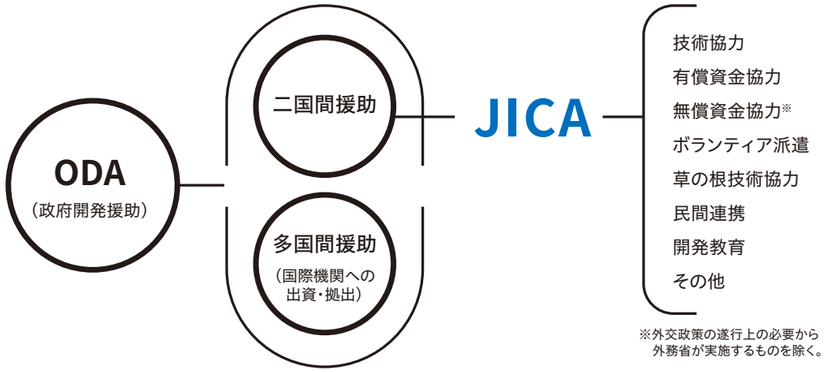
2026年7月
独立行政法人 国際協力機構

JICA
PROFILE
中国

鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県

Who We Are

独立行政法人国際協力機構（JICA）は、日本の政府開発援助（ODA）を一元的に行う実施機関として、開発途上国への国際協力を行っています。



※外交政策の遂行上の必要から外務省が実施するものを除く。

Mission

JICAは、開発協力大綱の下、人間の安全保障※と質の高い成長を実現します。

※人間一人一人に着目し、生存・生活・尊厳に対する広範かつ深刻な脅威から人々を守り、それぞれの持つ豊かな可能性を実現するために、保護と能力強化を通じて持続可能な個人の自立と社会づくりを促す考え方のことです。

Vision

信頼で世界をつなぐ

JICAは、人々が明るい未来を信じ多様な可能性を追求できる、自由で平和かつ豊かな世界を希求し、パートナーと手を携えて、信頼で世界をつなぎます。

国内拠点・地球ひろば

①JICA北海道（札幌・帯広）／ほっかいどう地球ひろば
②JICA東北
③JICA二本松
④JICA筑波／つくば地球ひろば
⑤JICA東京
⑥JICA地球ひろば
⑦JICA横浜／海外移住資料館
⑧JICA駒ヶ根
⑨JICA北陸
⑩JICA中部／なごや地球ひろば
⑪JICA関西／かんさい地球ひろば
⑫JICA中国／ひろしま地球ひろば
⑬JICA四国
⑭JICA九州／きゅうしゅう地球ひろば
⑮JICA沖縄／おきなわ地球ひろば

※JICAには、世界のことを楽しく学べる体験型展示施設『JICA地球ひろば』と、南北アメリカを中心とした日本人の海外移住の歴史および日系人の現在をテーマにした資料館『海外移住資料館』の２つの体験型施設があります。

地域と世界をつなぐ — JICA中国

JICAは、東京の本部に加え、全国各地に国内拠点を設置し、日本と開発途上国を結ぶ国際協力を推進しています。これらの国内拠点は、日本における国際協力の重要な現場として、研修員の受入れやボランティアの訓練、国際協力に関する情報発信を担っています。さらに、自治体や大学、企業、NGOなど多様なパートナーと連携し、地域に根ざした取組を展開しています。これらの活動を通じて、世界と地域をつなぐ懸け橋となるとともに、地域の発展にも貢献しています。

JICA中国は、中国地方５県を管轄し、地域の特性を活かした国際協力を進めています。具体的には、地元大学等と連携した研修員や留学生の受入れ、海外協力隊の募集・広報および帰国後の社会還元支援、自治体や市民団体と協働した草の根技術協力、地場企業の海外展開支援など、多様な事業に取り組んでいます。また、世界の課題を自分ごととして捉え、主体的に行動できる人材の育成を目指す開発教育にも力を入れています。

JICAは「信頼で世界をつなぐ」というビジョンのもと、地域とともに学び、考え、行動する国際協力をこれからも推進していきます。

CONTENTS

あなたに合った国際協力メニューは？

		地方自治体、NGO、大学などの皆様	学校教育関係者の皆様	民間企業の皆様	国際協力に参加したい方どなたでも
研修員受入事業	P. 3	●		●	
中小企業・SDGsビジネス支援事業	P. 5			●	
草の根技術協力事業	P. 7	●		●	
ボランティア派遣事業	P. 9	●	●	●	●
開発教育支援事業	P. 11	●	●		●

研修員受入事業

詳しくは　JICA中国　研修員受入

研修員受入事業とは

JICAが開発途上国から受入れる研修員に、中国地方ならではの技術や経験を学んでもらうため、JICA中国は以下の４種類の研修事業を実施しています。

1 課題別研修・国別研修

- 「課題別研修」は多くの開発途上国に共通する課題について研修プログラムを策定し、複数の国から研修員を受入れるもの。「国別研修」は特定の開発途上国の個別のニーズに応じて「オーダーメイド」で研修プログラムを策定し、その国から研修員を受入れるもの。
- 研修の期間は通常数週間～数か月間。
- JICAが地方自治体、公益法人、大学、NGO、民間企業などに研修の実施を委託。

2 長期研修（JICA留学生）

- 研修員があらかじめ定められたテーマについて研究し、主に修士・博士などの学位を取得するもの。
- 研修の期間は１年以上。
- JICAが大学に研修の実施を委託。

3 青年研修

- 開発途上国の将来を担う青年層を対象とし、日本の基本的な政策や技術の理解を目的とする研修。
- 研修の期間は２週間。
- JICAが公益法人等に研修の実施を委託。

4 日系研修　※研修実施を希望する機関からの提案に基づく事業

- 中南米諸国の日系社会の発展と移住先国の国づくりに貢献する人材を研修員として受入れるもの。
- 研修の期間は通常数週間～数か月間。
- 地方自治体、大学、公益法人、NGO、民間企業等の提案を受け、JICAがこれら団体に研修の実施を委託。

たくさんの協力事例があります！

事例①：「乾燥地における持続可能で強靭な農業のための土地･水･エネルギー管理」

研修実施機関　国立大学法人鳥取大学　研修種別　課題別研修

気候変動や土地劣化、水資源制約、エネルギー利用転換が世界的課題となる中、乾燥地では持続可能で強靭な農業生産システムの確立が求められています。鳥取大学は乾燥地や開発途上国の研究・教育を長年推進し、スーダンやエチオピア等との共同研究を展開してきました。この蓄積を活用し、JICAは参加者に乾燥地農業の土地・水・エネルギー資源管理を基礎から実践まで学ぶ機会を提供しています。これにより、参加国の農業生産システムの推進とSDGs達成に貢献します。

農場視察

乾燥地研究センター内の実験施設（ドーム状のガラス温室）の視察

事例②：ナイジェリア「北東部州復興計画策定能力強化」

研修実施機関　公益財団法人ひろしま国際センター　研修種別　国別研修

ナイジェリア北東部は、過激派組織によるテロや暴力、避難民の増加、社会サービスの停滞といった紛争影響課題を抱えています。
本研修では、北東部開発委員会（NEDC）や州政府、自治体職員を対象に、広島の戦後・災害復興の経験や行政と住民の協働の取り組みを学び、復興計画の策定・調整能力の向上を目的としています。
本研修により、被爆からの復興経験に基づく持続的な平和と復興を支える実践的知見の習得が期待されます。

原爆ドームの説明を熱心に聞く研修員

事例③：「環境管理（都市環境管理）」

研修実施機関　宇部環境国際協力協会　研修種別　青年研修

多くの開発途上国では、廃棄物管理の改善、資源循環型社会の構築、水・海洋環境の保全、都市化に伴う環境問題への対応など、多様で複雑な環境課題が生じています。
本研修では、各国で環境保全に携わる若手行政官やNGO職員が、「宇部方式」で公害を克服した宇部市の環境施策や実践を体系的に学びます。日本の都市環境管理に関する政策・制度や地域の取り組みへの理解を深め、自国の課題解決に向けた意識と行動の強化を目指します。

宇部市内のごみステーションを見学する研修員

事例④：日系サポーター「幼児保育・教育」

研修実施機関　出雲市　研修種別　日系研修

多くの日系ブラジル人が暮らしている島根県出雲市では、外国にルーツのある子どもたちが多い幼稚園において、相互理解に向け、園での生活やコミュニケーション等に工夫をしています。中南米の日系社会からの研修員たちが、「日系サポーター」として園児同士の仲介、幼稚園と保護者たちの橋渡し、中南米の音楽・ダンスによる交流活動などを行っています。中南米地域の文化を知る日系サポーターたちの活躍により、園内での子どもたちのコミュニケーションや学びの場が広がり、幼稚園と家庭や地域との信頼関係の深まりが見られています。

南米ペルーの日系幼稚園から来た日系サポーター

平和学習と復興・平和構築を担う次世代の育成

研修期間中に平和記念資料館の見学と、広島の復興の歩みを学ぶ講義を組み合わせた「広島平和学習」を取り入れています。紛争や災害からの再建に向き合っている開発途上国からの研修員たちにとっても、持続可能な平和を考える貴重な機会となっています。
また、研修の一環として、研修員たちと日本の若者たちが対話するセッションを設けており、世界や開発途上国の平和や開発についての意見交換が行われています。開発途上国と日本という異なる背景と経験を持つ参加者が意見を交わし、想いを共有することで、世界の平和や共生について考える新たな視点を育み、復興・平和構築を担う次世代の育成にもつながっています。

研修員たちと広島の若者たちとの対話

中小企業・SDGsビジネス支援事業 -JICA Biz-

詳しくは　JICA中国　民間連携

JICA Biz とは

JICAは、中国地方の民間企業の優れた製品や技術を開発途上国の開発に活用することで、開発途上国の課題解決、企業の海外ビジネスの成功、そして企業の地元地域の経済活性化というWIN-WIN-WINの状況を目指します。

開発途上国の開発ニーズと民間企業の製品・技術のマッチングを支援します

応募から事業完了までの流れ

- JICA中国に応募相談
- 公示
- 企画書作成、提出
- 審査・採択
- JICAとの契約締結
- 事業の実施
- 報告書の作成
- 事業完了

支援制度：メニューは以下の通り

現地での仮説の確認と不足情報の収集 → 現地ニーズと製品サービスの適合性確認 → ビジネスの成立性持続性の確認 → 提供体制や運用方法の確立 → ビジネス展開

JICAコンサルタントによる伴走支援（ビジネスアドバイザリ）

ニーズ確認調査	ビジネス化実証事業	
ビジネスモデルの検証 対象国の基礎情報をもとに、開発途上国ニーズ、顧客ニーズと自社製品/サービスとの適合性を分析し、競争優位性を含めた初期的なビジネスモデル（市場規模の把握、顧客の特定、流通チャネル等）を検証する。	**ビジネスプラン（事業計画）の策定** 製品/サービスに対する顧客の受容性、現地パートナーの候補を含むビジネスモデル策定に関連する調査を通じ、収益性の検証と製品/サービス提供体制・オペレーションの構築、ビジネスプラン（事業計画）を策定する。	自社によるビジネス事業化 JICA事業との連携
期間：上限12か月	期間：上限2年6か月	
調査経費：上限1,500万円	調査経費：上限4,000万円	
対象企業：中小企業／中堅企業 非営利法人、中小企業団体	対象企業：中小企業／中堅企業／大企業 非営利法人、中小企業団体	

さまざまな業種の企業に制度を活用いただいています！

活用事例：株式会社トロムソ（広島県尾道市）→ 調査国　マダガスカル

案件名　もみ殻を原料とした固形燃料製造装置の普及・実証事業

薪炭の利用拡大により森林伐採が進行し、代替となる安価かつ持続可能な燃料の入手が課題となっている背景を踏まえ、もみ殻のみを材料とした固形燃料製造装置の導入の可能性を調査しました。

もみ殻を固形燃料化する作業

もみ殻を固形燃料化・袋詰めする様子

もみ殻固形燃料をかまどで使用する様子

活用事例：株式会社ウエスコ（岡山県岡山市）→ 調査国　サモア

案件名　人工湿地による汚水の自然浄化とグリーンインフラ整備のためのニーズ確認調査

干満式人工湿地による汚水浄化システムを利用し、島しょ国固有の問題（少人口、遠隔性、自然災害等）を踏まえた持続可能な水質浄化技術のあり方について調査しています。

村に設置されたバイオガス視察

浄水場視察

ノニ工場視察

活用事例：株式会社ニッカリ（岡山県岡山市）→ 調査国　ネパール

案件名　モノラック導入にかかるビジネス化実証事業

日本製の安全でコンパクトなモノレールを導入することで、山間地農業、生活改善を促進するとともに、山間地の災害対策、インフラ整備への貢献を目指しました。

現地の工事現場での実証試験の様子

関係者を日本に招聘し稼働を視察
（瀬戸内の桃園）

活用事例：海洋建設株式会社（岡山県倉敷市）→ 調査国　メキシコ

案件名　シェルナースを用いた持続可能な漁業に係る普及・実証事業

シェルナース（人工漁礁）を沈設し、生物多様性の回復と漁業資源の再生の効果を検証。現地関係者からなる里海協議会を創設し、地域住民と協働しながら持続可能な漁業を進める里海計画を策定しました。

廃棄貝殻を充填したシェルナースを
沈設する様子

沈設したシェルナースに集まる魚群

活用事例：多機能フィルター株式会社（山口県下松市）→ 調査国　フィリピン

案件名　法面保護用侵食防止・植生マットの普及・実証・ビジネス化事業

法面の土壌侵食防止と計画的緑化を同時に且つ簡便に実現できる技術を利用した法面保護マットの実証及び現地行政機関への技術移転を目的とした事業。法面に起因する土砂災害リスク軽減への貢献を目指しました。

施工状況

施工直後

施工 3 か月後

草の根技術協力事業

詳しくは　JICA　草の根

草の根技術協力事業とは

国際協力の意思のある日本のNGO/CSO、その他民間の団体、地方公共団体、独立行政法人または学校が、これまでの活動を通じて蓄積した技術、知見、経験を活かして提案する国際協力活動を、JICAが提案団体に業務委託してJICAと団体の協力関係のもとに実施する共同事業です。

3つの重要な視点

- 日本の団体が主体的に行う「技術協力」であること
- 相手国実施機関（カウンターパート）との協働であること
- 開発途上国の地域住民の生活改善・生計向上に裨益すること

募集から事業実施までの流れ

1. JICA中国に活動内容をご相談ください
2. JICA中国は事業アイデアをうかがいながら、提案書の作成をサポートします
3. 提案書作成・応募
4. JICAによる審査・採択
5. 相手国政府や実施機関の了解を得ます
6. JICAと業務委託契約を結びます
7. 事業を共同で実施します（定期的にご報告いただきます）
8. みなさまの活動報告を公開でおこないます

草の根技術協力事業の3類型

パートナー型	支援型	地域活性型
◆開発途上国の支援において**豊富な支援実績を有している団体**が対象。 ◆経験や強みを活かし、開発途上国の課題解決により寄与する事業を展開することが期待されます。 ◆事業規模：1億円/3年（最大）（3,000万円/3年の別枠あり）	◆**開発途上国での支援実績が少ない団体**が対象。 ◆国際協力の経験を積み、将来的に国際協力の担い手として活躍することが期待されます。 ◆事業規模：1000万円/3年（最大）	◆**地方公共団体が主体**となって提案・実施。 ◆途上国の開発課題の解決とともに日本の地域や経済の活性化にも寄与することが期待されます。 ◆事業規模：6000万円/3年（最大）

中国地方のさまざまな団体に協力いただいています！

協力事例：大学による実施

案件名　ジョグジャカルタにおける農業従事者の生活向上のための牛繁殖効率の改善（支援型）

実施国　インドネシア　**実施団体**　国立大学法人山口大学

獣医師らへの牛繁殖のための診断技術の指導

現地の牛舎での畜産知識の向上を目指した技術指導

ジョグジャカルタ特別州のグヌンキドゥル県で、牛1～2頭を飼育する小規模畜産農家の貧困克服のために、飼育牛の繁殖効率の向上を目標とする事業に取り組みました。繁殖牛個体情報のデータ管理の改善、人工授精師、獣医師ならびに獣医補助者に対する畜産知識の研修と定時人工授精法の技術移転などを通じて、肉用牛の生産効率が上がり、農家の収益増加に貢献しました。

協力事例：地方自治体による実施

案件名　地域活性化に向けた教育魅力化プロジェクト
～ブータン王国における地域課題解決（PBL）展開事業～（地域活性型）

実施国　ブータン　**実施団体**　島根県隠岐郡海士町

現地でのPBL推進ワークショップ

プロジェクト対象校の現地高校生によるPBL実践のためのフィールドワーク

海士町は、知識偏重の旧来型教育から21世紀型の学びへの移行を目指すブータン教育省と協働し、これまで自町で培ってきた人材育成の経験や隠岐島前高校の教育モデルを基に、本事業を実施しました。本事業では、地域課題解決型学習（PBL）を導入し、生徒が自ら課題に向き合い地域に貢献する力を育むことを目指し、パイロットエリアであるチュカ県では、こうした学びを体系化したブータン版PBLの実践モデルの構築に取り組みました。

協力事例：NGOによる実施

案件名　トリンコマリー県の地元資源を生かした循環型農業の普及による小規模農家の持続可能な生計の確保（パートナー型）

実施国　スリランカ　**実施団体**　特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

もみ殻を活用して有機肥料を作る方法の指導

来日して有機農法を学んだスリランカの農業指導員たち

スリランカのトリンコマリー県内の小規模農家に対して、循環型農業の知識を学ぶ研修、籾殻くん炭やコンポスト・堆肥などの有機肥料の活用指導、簡易会計トレーニングなど通じて農家の生計向上を目指す活動を行いました。また、農業指導員らが来日し、広島県神石高原町の農家でコメ作りや野菜栽培などの有機農法を実地に学びました。

世界の人びとのためのJICA基金活用事業

市民の皆さま、法人・団体の皆さまの「国際協力活動を応援したい」という思いのこもった寄付金により運営している事業です。

【対象となる事業】
◎開発途上国・地域の人びとの貧困削減や生活改善・生計向上に貢献する活動
◎外国人の受入・秩序ある共生社会にむけた取り組みへの支援に関する事業
【事業期間】覚書締結から最長2年
【事業の規模】上限200万円（税込）

世界の人びとのための
JICA基金活用事業は
こちらのQRコードからご確認ください。

実施団体：One EARTH Project Hiroshima

コスタリカで土産品や雑貨等の開発・製造をしている女性事業者の売上拡大、収益の向上・自立を目指す事業を実施。現地に渡航し、中米行政研究所（ICAP）と連携して、マーケティング手法の研修を実施し、女性事業者たちの事業所を視察して個別相談や事業改善のアドバイスを行いました。

ボランティア派遣事業

詳しくは JICA中国　ボランティア

JICA中国にお気軽にご相談ください！

JICA 海外協力隊とは

JICA海外協力隊として世界で活躍してきた中国地方出身者は、これまで3, 600人以上に及びます。自身が持つ技術や経験を活かして、開発途上国の人々と共に活動しながら現地の課題解決に取り組むことを目的としています。また、帰国後はグローバル人材として国内外で活躍することが期待されています。

JICA海外協力隊の 3 つの目的

- 開発途上国の経済･社会の発展、復興への寄与
- 異文化社会における相互理解の深化と共生
- ボランティア経験の社会還元

JICA海外協力隊の種類は次のとおり

募集期：春募集・秋募集の年 2 回/派遣期間：原則 2 年間

	一般案件		シニア案件
案件区分	「自分の持っている技術・知識や経験を開発途上国の人々のために活かしたい」という強い意欲を持つ方が、職種・要請を選んで応募します。		「自分の持っている専門的な技術・知識や経験を開発途上国の人々のために活かしたい」という強い意欲を持った方が、より専門性の高い職種・要請を選んで応募します。
種類 活動地域	青年海外協力隊	海外協力隊	シニア海外協力隊
	アジア・アフリカ・中南米・太平洋・中東・欧州地域		
	日系社会青年海外協力隊	日系社会海外協力隊	日系社会シニア海外協力隊
	中南米の日系社会		
年齢	20～45歳	46～69歳	20～69歳

※呼称（種類）は案件区分・年齢によって異なります

上記のほかに、派遣期間が 1 か月から 1 年未満の「短期派遣」もあります

JICA海外協力隊による原爆展・平和展について

チュニジアで開催

ペルーで開催

パラグアイで開催

JICA中国では、JICA海外協力隊による「原爆展・平和展」の取り組みを支援しています。 この活動は、広島県出身の青年海外協力隊員 4 名が、2004年に派遣先のニカラグアで初めて開催したことから始まりました。その後、世界の平和と安定に貢献するJICA海外協力隊の多くがこの趣旨に賛同し、有志の隊員によって活動は受け継がれています。これまでに70か国以上で原爆展・平和展が開催され、平和への願いを世界へ広める草の根の取り組みとして発展しています。

中国地方出身の海外協力隊員がさまざまな職種で活躍しています！

ニカラグア/品質管理・生産性向上（鳥取県出身）

ニカラグアの起業促進省ビジネス戦略課において、小規模生産者及び中小企業を対象とした研修の企画・実施や、配属先職員の能力強化に尽力され、品質・生産性の向上ならびに地域産業の競争力強化に貢献しました。

ザンビア/家畜飼料・飼料作物（島根県出身）

ザンビアの首都ルサカにある農業短期大学にて、畜産農家の生産性向上を目指し、エサづくりから給水槽の改修や簡易牛舎設置といった飼育環境の改善に取り組み、家畜全般の繁殖率向上に取り組みました。

ルワンダ/コミュニティ開発（広島県出身）

タンザニア国境に近いキレヘ郡で、給水施設維持管理グループの能力強化を支援するとともに、地域保健センターと連携して、住民に対する水施設の使用方法の指導や衛生啓発活動を実施しました。

マダガスカル/小学校教育（岡山県出身）

マダガスカルの首都に近いアナラマンガ県アンブジャチム郡で小学校を巡回しながら、アクティビティを取り入れた授業やアクティブラーニングの指導、現地の教員と一緒に教材作成をする等の活動を行いました。

キルギス/高齢者介護（山口県出身）

キルギスの国立大学付属日本学院にて、日本でのインターンシッププログラムを念頭に置いた、高齢者介護施設での介護についての授業や、介護の専門用語集の作成等を行いました。

東ティモール/看護師（広島県出身）

東ティモールの国立衛生研究所に配属され、配属先と地方保健局と協働し、医師や看護師、助産師、救急隊員などの医療従事者に対して救急医療における基礎技術及び外傷初期対応の技術指導を中心に活動を行いました。

JICA海外協力隊グローカルプログラムを実施しています！

JICA中国管内でも、複数地域でJICA海外協力隊グローカルプログラム（派遣前型）を実施しています。グローカルプログラムは、自治体などが行う地域活性化や多文化共生等の取り組みに、OJTとして参加するプログラムです。日本国内の地域活性化の取り組みを知ることで、海外での活動に役立つ実務経験や知識を身につけることが期待されています。

鳥取県南部町での活動
地域の方へのニーズを聞いている様子

島根県海士町での活動
船小屋づくり用に杉皮のはがし方を教えてもらっている様子

開発教育支援事業

詳しくは　JICA中国　開発教育

JICA中国施設訪問「国際理解教室」

＼来て、見て、触れて、世界について考えよう！／

JICA中国を訪問し、開発途上国の暮らしや世界が抱える問題、国際協力について学べるプログラムです。
校外学習、修学旅行はもちろん、生涯学習や教員・職員研修などにも是非ご活用ください。

国際協力出前講座

＼世界と教室を繋げます／

開発途上国で国際協力に携わったJICA海外協力隊経験者やJICAスタッフが、現地でのユニークな体験をお伝えします。学校だけでなく、公民館など様々な場所でご活用頂けます。オンラインでの講座も実施しています。

研修員の学校訪問（幼稚園～高校）

日本の子どもたちが開発途上国や異文化に触れるきっかけとなるよう、またJICA研修員が日本文化への理解を深めるきっかけとなるよう、JICA研修員が中国地方の学校を訪問します。

高校生国際協力体験プログラム

世界の問題について知り、自分に何ができるかを考える２泊３日のプログラムです。講義やワークショップを通して、国際協力への理解を深め、アクションプランを作成します。

研修員の学校訪問（大学等）

大学（短大・高等専門学校・専門学校等）を対象に、開発途上国出身のJICA研修員が学生と直接交流します。研修員の母国の課題について対話でき、お互いの理解を深めるプログラムです。

大学生フィールドワーク合宿

国際協力に必要な様々なスキルを日本国内の現場で学ぶと共に、国内外で活躍する企業や国際協力関係者、JICA留学生や地域住民との意見交換を通して、Think globally, act locallyを体験できる合宿です。

教員のみなさまへ

教師海外研修

国際理解教育に関心を持つ先生方に、実際に開発途上国を訪問して頂くプログラムです。現地での学びを授業等を通じて、日本の児童・生徒へ発信していただきます。

国際理解教育・開発教育教員セミナー

教室ですぐに実践できるワークショップを実際に体験しながら学べる参加型セミナーです。学級経営やホームルームなど様々な場面で活用できる手法をご紹介します。

JICAひろしま 地球ひろば

民族衣装の試着や楽器体験もできます！

開発途上国の文化や生活、国際協力、世界の平和と広島のつながりを、見て、触れて、知ることができます。季節ごとに変わる企画展も行っています。ぜひ遊びに来てください！

ご利用時間：月曜日～金曜日　9：30～17：45（土・日・祝・年末年始休館）
※どなたでもご利用頂けます。事前申込みは必要ありません。

中国5県のJICA窓口

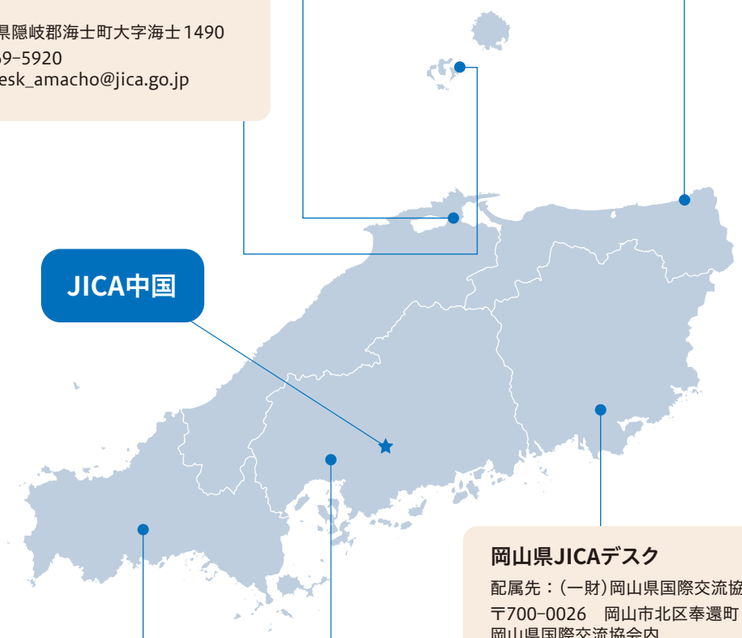
詳しくは　中国5県のJICA窓口

あなたに一番近いJICA窓口です。
開発途上国で活躍した経験を持つ国際協力推進員が、
各地域のJICAデスクで皆さんのお越しをお待ちしています。

島根県JICAデスク
配属先：(公財)しまね国際センター
〒690-0041　島根県松江市幸町1571
電話番号：080-2934-8496
E-mail：jicadpd-desk-shimaneken@jica.go.jp

鳥取県JICAデスク
配属先：(公財)鳥取県国際交流財団
〒680-0846　鳥取市扇町21
鳥取県立生涯学習センター(県民ふれあい会館)3階
電話番号：080-2934-8495
E-mail：jicadpd-desk-tottoriken@jica.go.jp

島根県海士町JICAデスク
配属先：海士町役場
〒684-0403　島根県隠岐郡海士町大字海士1490
電話番号：070-1369-5920
E-mail：jicadpd_desk_amacho@jica.go.jp



岡山県JICAデスク
配属先：(一財)岡山県国際交流協会
〒700-0026　岡山市北区奉還町2-2-1
岡山県国際交流協会内
電話番号：080-2934-8497
E-mail：jicadpd-desk-okayamaken@jica.go.jp

山口県JICAデスク
配属先：(公財)山口県国際交流協会
〒753-0021　山口県山口市桜畠3-2-1
山口県宮野庁舎2階
電話番号：080-2934-8498
E-mail：jicadpd-desk-yamaguchiken@jica.go.jp

広島県JICAデスク
配属先：(公財)広島平和文化センター
〒730-0811　広島市中区中島町1-5
電話番号：080-2934-8494
E-mail：jica_hiroshima_desk@jica.go.jp

各県内の地域とも連携しています！

各地域との連携についてはこちらにお問い合わせください。▶ jicacice@jica.go.jp

フロアガイド

詳しくは　JICA中国　施設紹介

一般の方もJICA中国の施設をご利用いただけます。車いすのご利用、補助犬の同伴も可能です。
「ひろしま国際プラザ」は、JICAと広島県との合築施設です。

1 レストラン「ラコルト」
エスニック料理を中心とした世界の味をビュッフェスタイルでお楽しみいただけます。「食」を通じて世界を感じてみませんか？

【ランチ】11:30～14:00
（最終入店13:30）
※食材が無くなり次第、営業を終了する場合があります。

週間メニューはこちら ▶

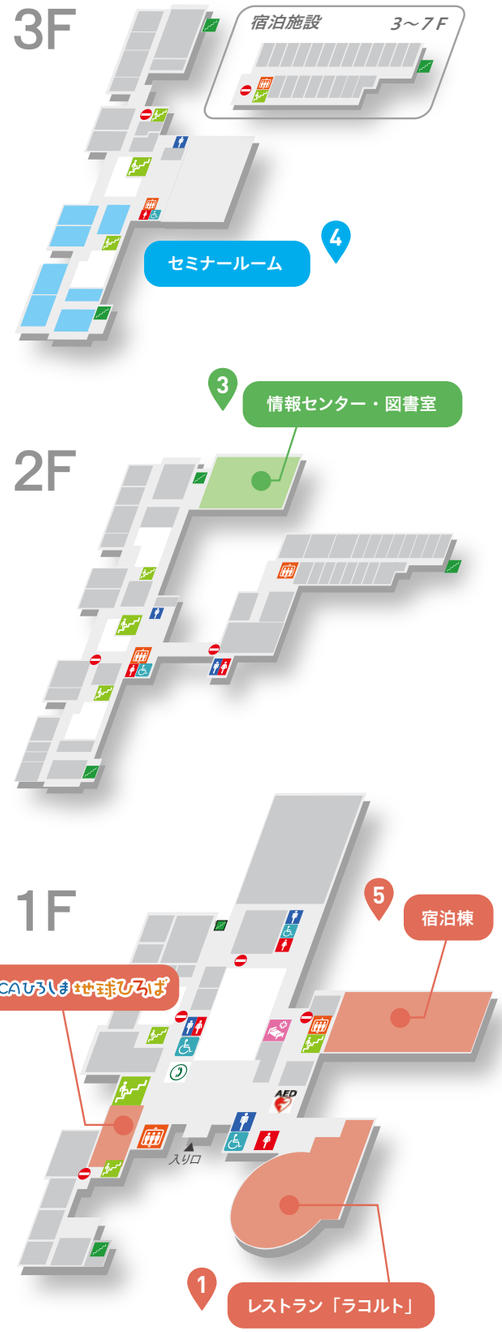
2 JICAひろしま 地球ひろば
予約無しで利用できるオープンな展示スペースです。

3 情報センター・図書室
英語の絵本や外国人向けの日本語の本など国際交流に関する資料を所蔵しており、どなたでもご利用いただけます。
※運営管理：(公財)ひろしま国際センター

【開室】平　日 10:30～12:30、
13:30～19:00
土・祝 10:30～19:00
【休室】日曜日・年末年始

4 セミナールーム
国際理解・協力の用途で事前予約にて貸出しています。（原則有料）

5 宿泊棟
JICA事業/JICAとの連携事業の関係者のいずれかに該当する場合に限り、宿泊することができます。
※一般向けではございません。



※ひろしま国際プラザには他にもNGO交流室やクッキング交流室等があります。
本施設の詳細については（公財）ひろしま国際センターホームページをご覧ください。